

シクロクロスとは

シクロクロスは、ロードシーズンが終わる9月から翌年2月にかけて行われる。歴史は1900年代の初めにフランスで始まった。初めてシクロクロスを行ったのはダニエル グーソー Daniel Gousseau であった。後にフランス車連の会長となる彼は若い兵隊であった。隊長が馬にまたがり、自身は自転車で野山を駆けた。グーソーの情熱は次々に友人に広がり冬の娯楽となった。1902年、グーソーは 最初の国内選手権を開催した。デ・バーデル De Baeder が初代チャンピオンとなった。この競技の本当の転機は オクタビ ラパゼ Octave Lapize による。彼はシクロクロスをこなしたあと 1910 年のツールドフランスに勝利した。春から初秋にかけて、クラシックレースや、ツールドフランスのようなステージレースを走った後、タイヤ、ブレーキ、泥はけを強化したロードレースと同じような自転車で郊外の丘陵で競走をする競技の位置付けができた。冬もレースを見たいクレージーな客が長靴を履いて集まり、冬も稼ごうというレーサーとが集まり、毎週どこかに特設サーキットを作って競走を開くようになった。

国際レースの先駆けとなる第1回の国際クリテリウムが1924年のパリで開かれた。しかしシクロクロスは公式競技ではなかった。フランス人のガストン・デギー Gaston Degy が勝利した。以後、チャールズ ペリシエ Charles Pelissier が 1926、1927、1928 と3連覇。マース型ハンドル(ドロップハンドル)に名を残すベルギー人のシルビア マース Sylvere Maes が 1933、ロベルト・オブロン Robert Oubron が 1937、1938、1941、1942 に勝利している。残念ながら、今ドロップハンドルをマース パーと呼ぶのはランドナーに乗るおじさん世代だけになってしまった。

<>1950年になりようやく世界選手権となった。パリで行われ、ジャン・ロバック Jean Robic が初代のチャンピオンとなった。歴代最高のスター選手はベルギーの ブラマンク Eric De Vlaeminck であろう。1966年に20歳でレインボージャージを手にした。そして 1968 年から 1973 年まで6連覇した。世界選手権では1976年からジュニアカテゴリーが始まった。1995年スイス エッセンバッハで U23 ヨーロッパ選手権が併催され、1996年 パリ・モンリュウからは U23 世界選手権が開催された。

日本でも35年近く前から埼玉県でされていた。1983年 森幸春がイギリス パーミンガムの世界選手権アマチュアカテゴリーに47位で完走したことは国内の歴史とは別の出来事であり、歴史は止まっていた。

1986年、初代のシクロクロス小委員会会長の藤森氏が留学先のオランダから長野県へ、サーキットで行うシクロクロスシリーズを持ち帰った。それからポイント制の最強者を決めるシリーズ戦が各地に広がった。リシャールグロネンダールやティムゴールド、ハンカ・クツファーナゲルが来日し、ヨーロッパのレースのアドバイスを開催者、若い選手に伝えた。

1989-1990シーズン、当時大学生の大原満がシクロクロスミーティングリーダーの賞でヨーロッパ修行に出かけた。翌1991年 オランダ ギーテンの世界選手権で三谷寛志、大原満が完走。ここから世界挑戦が現実のものとなった。

教科書 PDF ファイル(2006.11)>>[ダウンロード 1.4MB](#)

シクロクロスルールについて

2006 シーズンで得点計算が若干変わった。良かった5試合の得点を計算する仕組みで、列強国が地元の試合に沢山出てアドバンテージを取ることを減らし、そこへ乗り込んでいく我々に有利な変更だ。

ルールの最新版は右のファイルを参照してください。最新版 2008:[UCI シクロクロス規則 PDF](#)

仲間を誘って参加しよう。

シクロクロスはチームプレーが大事。練習、遠征、テクニック、機材情報いずれも一人では不利だ。実際に出走するライダーの他にメカニックアシスタントが必要だ。クラブに入り、他のカテゴリーに参加する仲間と交代でサポートをしあおう。そうすれば、車輪のスペア、予備機材も十分だ。また先輩のメカニックをすることで知識、裏技が入ってくるのだ。

機材で負けるな。ピットワークについて。

シクロクロスでは機材故障は必発だ。この点ではまだ発展途上の自転車機材といえる。

新型の機材がロード、MTB から導入され、淘汰されていく。昔の機材が生き残り、最新のものでも絶対的なスタンダードはない。

コースのコンディションに合わせてタイヤは違う。3パターンくらいのタイヤを土、泥、雪などで使い分けよう。ペダルも泥詰まりが解消されたものが登場した。ライバルがいい機材を使っている、自分は旧式ではスタート、ゴールを譲ったようなもの。

カテゴリー2になったら予備車輪を、カテゴリー1になったらスペアマシンを持とう。

帰りに温泉、地元のグルメを味わって来よう。

不幸というか幸いというか、シクロクロスは街の中心でされることは少ない。広いフィールドの確保できる片田舎で行われることが多い。そんな所へ出かけて、レースだけで疲れて帰ってきてはもったいない。レースの前は忘れがちだけど、そこはけっこう有名な観光地でもあるのだ。温泉、そば、おやき、甘味で、リフレッシュして疲れは遠征先に置いてこよう。

機材について

シクロクロスはロードレーサー由来の競技で、公式試合ではおおまかな外見はロードレーサーであることが要求される。特に1999 年9月より厳しくなり、古典的なドロップハンドルのみで制限されている。

国内では後に述べるカテゴリー別に次のように制限をしている。カテゴリー1は世界のルールに従わないといけない。カテゴリー 2、3、女子 L2 はいつか準備するとして、まずは今あるマウンテンバイクかロードレーサーで参加して大丈夫だ。

カテゴリーとは その1

国内のシクロクロスは男子は実力別に3クラスに分かれている。誰でもチャレンジできるカテゴリー3から挑戦して欲しい。カテゴリー3で、優勝もしくはそれに近い成績を出した者はカテゴリー2へあげられる。そして、カテゴリー2のトップクラスだけがカテゴリー1入りを認められる。こうしてできたクラスだからカテゴリー間での実力差は歴然としている。たとえば、カテゴリー1の人はどのひとりも、もしカテゴリー2で走ったら優勝できるチカラの持ち主なのだ。また、カテゴリー3でぶっちぎりで優勝して“2”にあがっても、そこはみんな優勝経験者の世界。ハイレベルな昇格へのバトルの中、“2”ではただのひとかもしれないし、あるいは勝てるかもしれない。だれもが平等に昇格のチャンスがある世界だ。

そうはいつでも、という選手もいることはいる。MTB の代表になるような人が参加するときはカテゴリー3の競走を壊さないために、そのときだけオルガナイザーが特別にカテゴリー2で走らせるようなこともある。

2006 シーズンから女子のカテゴリーは従来の L2 は L1 L3は L2 と呼称を変えることにした。これはトップカテゴリーなのに「2」というのはおかしいということで敬意を示してのものだ。

女子ジュニア選手はエリートと同じ競争をしてよい。(2008.9.1)

カテゴリーとは その 2. 年齢制限

シクロクロスは他の競技に比べ、身体への負荷が大きい。成績はともかく、初めのうちは自分の思うように走れるのは20分間程度で、そこから先はハンドルの抑えが効かないとか足が上がらないとかで同じ走りが苦しくなるものだ。事故や過負荷を避けてヤングライダーの成長を見守るために年齢別に競走時間の制限をしている。力があっても表に示したカテゴリー以下でしか戦えないことを理解して欲しい。ただし例外もあって、カテゴリー2で連勝し、全く敵なしになってしまったジュニアの選手はシクロクロス小委員会からカテゴリー1でのスタートを許されることもある。

その3 カテゴリーの移動がある。

強い選手が初級者クラスにとどまって連戦連勝は他のライダーに迷惑。上級者クラスに下手な人がいても危険。そこで、試合の結果、上位10パーセントの選手は上のクラスに自動的に上がるようになっている。また年間、2 試合でトップから90パーセントの結果が出せないと実力なしとみなされて次の年には下のクラスに落とされてしまう。

2007-2008 シーズンの昇格残留基準は次の通りだ。全日本の試合もカウントされる。C2C3 からの昇格は厳しくなった。

全日本選手権の日には同時開催で普段カテゴリー2で走っている選手も含めたマスターズ チャンピオンの表彰を行っている。
AJOCC でそのシーズン1枚だけのチャンピオンジャージを贈る。これを目標にして欲しい。

昇格基準

完走者数	C3->C2	C2->C1
1-4	0	0
5-9	0 (ただしシリーズ2勝は特例昇格)	0
10-19	1	1
20-29	2	2
30-39	2	2
40-49	2	2
50-59	2	3
60-	2	4

降格基準

トップに対しての成績	必要完走数
95%	1 回
90%	2 回

シクロクロス カテゴリー区分表

クラス	2009 年 1 月 1 日の年齢	UCI カテゴリー	国内カテゴリー制限
女子	初心者、ホビー	30 分	L2: 30 分
女子	17 歳以上(-1992)	40 分	L1: 40 分
ユース	15、16歳 1993-1994	30分	3: 30分
ジュニア	17、18歳 1991-1992	40分	2: 40分
アンダー23	19-22歳 1987-1990	50分	1: 60分
エリート	23歳以上 -1986	60分	1: 60分
マスターズ	40 歳以上 自己申告	30 分	M: 30 分

女子ジュニアは、エリートと一緒に競争してよい。